

「私の周りにはいなかった」 5月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

ある日のテレビ放送で「LGBTQ+は知っているけど、私の周りにはいなかった」という複数の声に対し「いなかったんじゃない。言えなかったんだ」という当事者の声。このわずか数十秒の画面に深く考えさせられました。電通ダイバーシティ・ラボが行った「LGBTQ+調査」によると、国内の性的少数者といわれる人の割合は、人口の8.9%（約11人に1人）で、左利きの人の割合とほぼ同じだそうです。実感として、どうでしょうか。「男女のあり方と社会意識に関する調査」では、周囲にLGBTQ+の当事者はいないと考える人が多いという結果が出ていますが、それは単に当事者からカミングアウト（自分のセクシャリティを他者に伝えること）されていない人が多いだけ

で、自分の周りにも必ず当事者がいると考えた方が良いと指摘しています。LGBTQ+を自認している人の65.1%が「誰にもカミングアウトしていない」と調査で回答したそうです。主な理由は、偏見を持たれたくないから43.5%、理解してもらえないと思うから36.4%、嫌がらせ・悪口などがあるかもしれないから27.9%など。あるLGBTQ+の会の代表は「当事者の多くは、常にバシないよう細心の注意を払って生活している」と説明します。国内のLGBTQ+の認知度は68.5%と増加していますが「社会が変わってしまう課題」「生産性がない」と否定する発言を聞く、カミングアウトはできません。性的少数者は、本当はすべてそばにいて、違いを認めない私たちの周り

で人知れず苦しんでいます。まずは、性的少数者について正しく知ることから始め、全ての人が自分らしく、ありのままに振る舞える社会に変えていきましょう。

